


10. 死人は本当に死んでいるのだろうか？

このページのプリント 

死は、おそらく今日最も誤解されている主題のひとつでありましょう。多くの人々にとって死は神秘に包まれ、恐怖や不透明感、そして絶望感さえ引き起こします。そうでない人たちも、愛する故人は死んでいるのではなく、彼らの近くに、またはどこかほかの場所に存在しているのだと信じています。ある人々はいまだに、体、霊、魂の関係について混同した考えを持っています。あなたが何を信じるかということがそんなに重要なことなのでしょうか？ そうです！ なぜなら死についてあなたがどのようなことを信じるかによって、世の終わりに起こる出来事の理解に大きな影響を及ぼしてしまうことになるからです。推測をしている余地はありません。ですからこの聖書研究講座を通して、死の問題について神は本当は何と言っておられるのかということをおあなたにお教えます。目が開かれるようなすばらしい真理を学ぶ心構えをしてください。



1. 人はどのようにして存在するようになったのでしょうか？

「主なる神は土のちりて人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きた者となった。」 創世記 2:7

答え： 神は、最初に土のちりて人間を造られました。



アダムは初めに神によって創造された。

2. 人が死んだらどのようなことが起こりますか？



神の霊は、その人が善人であれ、悪人であれ、みな神に戻って行く。体は土のちりに帰る。

「ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを授けた神に帰る。」 伝道の書 12:7

答え： 体は、土のちりに帰ります。そして霊は、それを与えてくださった神に戻ります。死んだすべての人々の霊--義人であろうが悪人であろうが -- 死んだ時点で、神に戻ります。

3. 人が死ぬときに神に戻る「霊」とは何ですか？

「霊（「息」 - 英語聖書欄外参照）のないからだは死んだものである。」ヤコブの手紙 2:26（欽定訳聖書）「神の息（「神が彼に与えた息」 - 英語聖書欄外参照）がわたしの鼻にある」ヨブ記 27:3

答え：人間が死ぬ時に、神に戻って行く霊とは、命の息のことです。聖書全体のどこにも、人が死んだ後、「霊」が、命、知恵、また感情があるということは書かれていません。それは「命の息」であって、それ以外の何ものでもありません。



死ぬときに霊が神に戻ることは何も神秘的なことではない。それは命の息である。

4. 「魂」とは 何ですか？



この4人は4つの魂である。

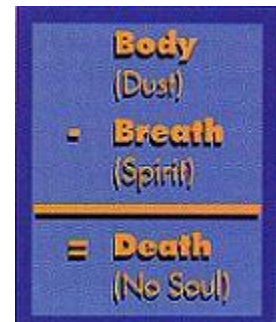
「そして主なる神は、土のちりから人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。すると人は生ける魂（者）となった。」創世記 2:7(欽定訳聖書)

答え：魂とは生きている人のことで、人間という存在そのものです。魂は、常に二つのものから成り立っており、それらは：体と息です。魂は体と息を兼ね備えていない限り存在することができません。神の言葉は私たちは魂だと教えています。

5. 魂は死にますか？

「罪を犯す魂は死ぬ。」エゼキエル書 18:20 「その中(海の中)の生き物(生きた魂-英語)がみな死んでしまった。」ヨハネの黙示録 16:3

答え：神の言葉によると、魂は死にます！ 私たちは魂であり、魂は死にます。人間は死すべき存在です（ヨブ記 4:17）。神だけが不死です（テモテへの第一の手紙 6:15,16）。不滅、不死という概念は、魂は死ぬべき対象だとする聖書の教えに反しています。



6. 良い人たちは、死んだ時点で天国に行くのですか？



「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き ... それぞれ出てくる時が来るであろう。」ヨハネによる福音書 5:28, 29 「ダビデについては、... 彼は死んで葬られ、現にその墓が今日に至るまで、わたしたちの間に残っている。」「ダビデが天に上ったのではない。」使徒行伝 2:29, 34 「もし、わたしが待つなら、墓がわたしの家になる。」ヨブ記 17:13 (欽定訳聖書)

答え: いいえ、人は、死んだ時点では、天国へも地獄へも行きません。彼らは墓に葬られ、復活の日を待ちます。



ダビデ王は神の王国に教われる。しかしながら、彼は現在墓の中で復活を待っている。

7. 死者は、地上で起こっていることをどのくらい知り、理解しているのでしょうか？

「生きている者は死ぬべき事を知っている。しかし死者は何事も知らない、また、もはや報いを受けることもない。その記憶に残る事がさえも、ついに忘れられる。その愛も、憎しみも、ねたみも、すでに消えうせて、彼らはもはや日の下に行われるすべての事に、永久にかかわることがない。」「あなたの行く陰府には、わざも、計略も、知識も、知恵もないからである。」伝道の書 9:5, 6, 10 「死んだ者も、音なき所に下る者も、主をほめたたえることはない。」詩篇 115:17

答え: 神は、死人は、まったく何も知らないと言っておられます！

8. 死者は、生きている人たちとコミュニケーションを図ったり、生きている人たちが何をしているのか知っているのではないですか？

「人は伏して寝、また起きず、天のつきるまで、目ざめず、その眠りからさまされない。」「彼の子らは尊くなっても、彼はそれを知らない、卑しくなっても、それを悟らない。」ヨブ記 14:12, 21 「彼らはもはや日の下に行われるすべての事に、永久にかかわることがない。」伝道の書 9:6

答え: いいえ、死人は、生きている人たちと交わったり、行っていることを知ることもできません。彼らは死んでいるのです。「彼の息が出ていけば ... 彼の思考は消え失せる。」詩篇 146:4 欽定訳聖書



何百万もの人々が、死人とコミュニケーションをとることができると考えているが、それは不可能である。

9. イエスは、ヨハネによる福音書 11:11-14 で、意識のない死の状態を「眠り」と言われましたが、死者はどれほど眠るのですか？



「人は伏して寝、また起きず、天のつきるまで、目ざめず、その眠りからさまされない。」ヨブ記 14:12 「主の日は ... 襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、」ペテロ第二の手紙 3:10

答え: 死者は、世の終わりの大いなる主の日まで眠り続けます。人間は、死んだ状態においては、まったく意識がなく、何の活動もせず、また、いかなる種の知識も持っていません。

イエスは死を「眠り」と呼ばれた。それは全くの無意識状態である。

10. キリストの再臨のとき、死んだ義人はどうなりますか？

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。」ヨハネの黙示録 22:12
「主ご自身が、... 合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、... こうして、いつも主と共にいるであろう。」テサロニケ人への第一の手紙 4:16, 17 「わたしたちすべては、... またたく間に、一瞬にして変えられる。...、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。」コリント人への第一の手紙 15:51-53

答え： 義人は報酬を受けます。彼らはよみがえり、不死の体が与えられ、空中で主にお会いするために引き上げられます。もし、人が死んだときに天国に行くのであれば、復活の目的は何もありません。



義人は、イエスの再臨のときに、命によみがえり、不死が与えられる。

11. 悪魔の最初のうそは何でしたか？



悪魔のエバに対する最初の偽りは「あなたがたは決して死ぬことはない」であった。その言葉はすべての聖書の教えとまったく矛盾している。

「へびは女に言った、『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。』」創世記 3:4 「この巨大の龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへび。」ヨハネの黙示録 12:9

答え： サタンは、エバに、罪は死をもたらしことはない、「あなたは、決して死ぬことはない」と言いました。

12. なぜ悪魔は、死についてエバに偽りを言ったのですか？この問題は、多くの人たちが考えている以上に重要なことではないでしょうか？

答え： 人は死ぬことはないという偽りは、悪魔の統治国の根本理念のひとつです。悪魔は、すべての時代において、死者の霊によって力を受けたと称する人々を通して、強力な奇跡を行ってきました。(例：エジプトの魔術師 -- 出エジプト記 7:11； エンドルの女 -- サムエル記上 28:3-25； 魔術師 -- ダニエル書 2:2； 占いの霊につかれた女 -- 使徒行伝 16:16-18)

厳粛な警告

世の終わりにサタンは、ダニエルの時代に行ったように再び魔術を使い、世界の人々を惑わします(ヨハネの黙示録 18:23)。魔術は、死者の霊から力と知恵を受けたと主張する超自然的な力です。

イエスの弟子たちになりすます

サタンと彼の天使たちは、愛されて死んだ信心深い人、現在は死人となった気高い聖職者、聖書の預言者、使徒たちや、キリストの弟子たちにさえなりすまし(コリント人への第二の手紙 11:13)、何十億人という人々を欺きます。人は死んでも、いかなる状態であれ生き続けると信じる人々は、確実にだまされてしまうことになります。



死んでも、生命を有すると信じる人は、簡単に悪魔の標的となる。

13. 本当に悪魔は奇跡を行うことができるのですか？



奇跡の業は、すべてが神からではない、なぜなら悪魔もまた、奇跡を行うからである。

「これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、」ヨハネの黙示録 16:14 「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」マタイによる福音書 24:24

答え： そのとおりです！悪魔は、人々が偽りを疑いもなく信じてしまうような奇跡を行います(ヨハネの黙示録 13:13,14)。サタンと悪天使たちは、光の天使を装って現れます(コリント第二の手紙 11:14)が、さらに驚くべきことは、キリストご自身にもなりすまして現れるということです(マタイによる福音書 24:23,24)。世界中の人々は、キリストと天使たちが、すばらしい、世界的なリバイバルに導いてくれるのだと共通の思いを抱きます。彼らが力説することすべてがとても霊的であり、そして超自然的なので、ただ神の選民(神のみ言葉を知り心から服従する人々)だけが惑わしを避けることができます。

14. なぜ神の民は、惑わされないのですか？

「ここにいるユダヤ人は ... 心から教を受けいれ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。」使徒行伝 17:11 「もし、彼らがこのことばによって語らないならば、それは、彼らの内に光がないからである。」イザヤ書 8:20 (英語欽定訳聖書)

答え： 神の民は、聖書を熱心に研究しているので、死者は生きているのではなく死んでいるのだということを知っているからです。死者の霊は存在しません。ですから神の民は、死者の霊と交信することによって特別な「光」を受けたと称する人々、または、奇跡を行う力が与えられたと主張して奇跡を行う人や教える人を決して受け入れません。それと同様に、死者は何かの形でどこかで生きていると主張する危険で偽りであるすべての教えも退けます。



選民は、聖書に反するすべての教えを断固として拒むので、惑わされない。

15. モーセの時代において、神は、死人は死んでも生きていると教える者をどのようにしなさいと命じられましたか？



モーセの時代において、死者と伝達し合う力があると公言した者たちは石で撃ち殺された。

「男または女で、口寄せ、または占いをする者は、必ず殺されなければならない。すなわち、石で撃ち殺さなければならない。」レビ記 20:27

答え： 神は、占いをする者、口寄せ（死人と交信できると言う者）は、石打ちの刑にするように命令されました。これは、神は死人は生きているという偽りの教えを、どのように見なしておられるのかということが表されています。

16. 復活のときによみがえった義人は、再び死ぬのでしょうか？

「かの世にはいつて死人からの復活にあずかるにふさわしい者たちは、... もう死ぬことはあり得ないからである。」ルカによる福音書 20:35, 36 「人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである。」ヨハネの黙示録 21:4

答え： いいえ！ 死、悲しみ、叫び、また、いかなる悲劇や苦難も神の新しい王国には入ることはありません。



神の新しい王国では誰も死ぬ事はない。死は悪魔の滅亡とともに絶える。

17. 今日、輪廻（靈魂の再生）を信じるのが、急速に拡大していますが、この教えは聖書に基づいているのでしょうか？



靈魂の再生は不可能である。なぜなら、善人であれ悪人であれ死ん

「生きている者は死ぬべき事を知っている。しかし死者は何事も知らない、... 彼らはもはや日の下に行われるすべての事に、永久にかかわることがない。」伝道の書 9:5, 6

死者はすべて、墓の中にいると神は言われる。

答え：この地球の約半数の人々が輪廻（靈魂の再生）を信じています。それは、魂は決して死ぬことはなく、その代わりに異なる体で生まれ変わり生き続けるというものです。したがって、この教えは聖書に反していますので、危険な誤謬と見なされるべきです。

聖書は次のように言っています

人が死ぬば：ちりに帰る(詩篇 104:29)、何事も知らない(伝道の書 9:5)、精神の力を所有しない(詩篇 146:4)、この地上で行われるすべてのことに、まったく関わることはない(伝道の書 9:6)、生きることはない(列王記下 20:1)、墓の中で待っている(ヨブ記 17:13)、命は続かない(ヨブ記 14:1,2)

サタンの捏造(ねつぞう)

この講座の質問 11 と 12 で、死者は生きているという教えは、サタンが作り出したということを学びました。輪廻、口寄せ、霊との交わり、祖先崇拜、不死の魂などのすべては、サタンがひとつの目的のために作り上げたものです。その目的とは、人は死んでも本当は死んでいないのではないということの人々に信じ込ませるためです。人は死んでも生きているというのを信じてしまうならば、それは「しるしを行う悪霊の霊」(ヨハネの黙示録 16:14)であり、サタンが死人の霊になりすますことで、ほぼ間違いなく 100 パーセントの確率で人々を欺き惑わすことができるのです(マタイによる福音書 24:24)。

18. 私は、繊細な課題である死についての真理を示してくれる聖書に感謝しています。



すべての教理に対して、聖書からの証拠を主張する人たちはサタンに惑わされることはない。

答え：

- はい
- いいえ

質問

1. 十字架の上の強盗は、キリストが死なれた日に、彼と共に天国に行きませんでしたか？ ルカによる福音書 23:43

行きませんでした。実際のところ、日曜日の朝、イエスはマリヤに次のように言われました。「わたしは、まだ父のみもとに上っていない」(ヨハネによる福音書 20:17)。この言葉から、キリストは死なれた時点では天国に行かれなかったことが分ります。実は英語の聖書も、ルカによる福音書 23:43 は、句読点の位置が間違ったところにつけられているために日本語と同じ誤訳になっています(この句読点は、靈感を受けておらず、人間によって付け加えられました)。日本語では、「きょう」という言葉の置き違いで、文章全体の意味が変わっています。これは、イエスが、「きょう(十字架におかかりになっているとき)」、強盗に言われたという意味です。ですから次のように訳されるべきです。「イエスは言われた。『きょう、よく言うておくが、あなたはわたしと一緒にパラダイスにいるであろう』」。または、「今日、あなたに言うておく、私自身が、犯罪人として十字架につけられ、だれをも救えないように見えるかもしれないが、わたしはあなたに、わたしと一緒にパラダイスに行くという確信を、今日与えよう」。キリストの王国は、再臨のときに成就します(マタイによる福音書 25:31)。そして、そのときに、すべての時代の義人たちが天国に行くのです(テサロニケ人への第一の手紙 4:15-17)。ですから、死んだときに天国に入るのではありません。

2. 聖書は、「不死」、「不滅の魂」などについて述べているのではないですか？ テモテへの第一の手紙 1:17

いいえ、聖書では、不死、不滅の魂のことは触れていません。「不死」という言葉は、聖書の中に、一箇所だけ見つけることができます。そして、それは神のことを指しています(テモテへの第一の手紙 1:17)。

3. 人が死ぬと体は土に帰り、霊、あるいは息は、これを授けた神に帰りますが、魂はどこに行きますか？ 伝道の書 12:7

魂はどこにも行きません。むしろ、ただ単に存在しなくなるだけです。魂は、二つのものが組み合わせられなければ決して存在することができません。それは、体と息です。息が出て行くと魂は消滅します。なぜなら魂は二つのものから成り立っているからです。あなたが電気を消したら光はどこへ行きますか？どこにも行きません。光はただ消えるだけです。光が灯されるためには二つのものを必要とします。電球と電気です。この組み合わせなしには光を放つことは不可能です。魂もこれと同様です。体と息を兼ね備えていなければ、魂の存在はありえません。ですから肉体を離れた靈魂などというものは存在しません。

4. 「魂」という言葉は、生きた人間や生物という意味ですが、何かほかの意味がありますか？ 詩篇 139:14

次のような言葉の意味もあります。(1) 生命そのもの、(2) 心、精神、知性、知力などです。たとえどの意味を用いようとも、魂は依然として二つのもの(体

と息) から成り立っています。そして、死において存在が無くなります。

5. ヨハネによる福音書 11:26 に書かれている、「また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」を説明していただけませんか？
ヨハネによる福音書 11:26

ここで述べている死は、すべての人々が死ぬ(ヘブル人への手紙 9:27) 第一の死ではなく、復活のない悪人の死である第二の死に関して述べています(ヨハネの黙示録 2:11;21:8)。

6. マタイによる福音書 10:28 に、「また、からだを殺しても、魂を滅ぼすことのできない者どもを恐れるな。」と書かれていますが、この聖句は、魂は不死であるということの証拠になるではありませんか？
マタイによる福音書 10:28

この聖句はその反対のことを証明しています。聖句の後半では、魂が死ぬということが示されており、むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。と言っています。ここでの「魂」という言葉は生命を意味し、そして、永遠の命を示しています。それは終わりの日に義人に与えられる(ヨハネによる福音書 6:54) 賜物(ローマ人への手紙 6:23) です。だれも神が与えられた永遠の命を取り去ることはできません(ルカによる福音書 12:4, 5 もご参照ください)。

7. ペテロ第一の手紙 4:6 で、福音が死人に宣べ伝えられたと書かれていませんか？
ペテロの第一の手紙 4:6

この聖句は英語の聖書を見るとわかるのですが、福音は死んでしまった人たちにも宣べ伝えられたと過去形になっています。つまり福音が伝えられた人たちは今は死んでいますが、彼らが生きていた間に宣べ伝えられたという意味です。

8. ヨハネの黙示録 6:9,10 に書かれている、霊魂が祭壇の下で叫んでいるという言葉はどのような意味ですか、魂は死なないということを示しているのではないですか？
ヨハネの黙示録 6:9

この叫びは、アベルの血の叫び(創世記 4:10) と同じ比喩的な表現なのです。ここでの「魂」の意味は、信仰のために殉教した人々です。もちろん、死んだ魂が実際に祭壇の下で横たわっていると、神が敵に復讐をするように義人が請うているなどと信じる人はいません。むしろ義人は、キリストが十字架の上でなされたように、敵に哀れみがあるように願う人々です(ルカによる福音書 23:34)。

9. 聖書には、キリストが十字架から復活までの間に地獄に行って、失われた魂に宣教したと書かれていませんか？
ペテロの第一の手紙 3:18

この質問の聖句は、ペテロの第一の手紙 3:18-20 からですが、宣教は、ノアの時代に生きていた人々に(19,20 節)「霊によってなされた」(18 節 欽定訳聖書)と書かれています。「獄に捕われている霊ども」とは、人生がサタンの奴隷になっている人たちのことを言っています(詩篇 142:7 イザヤ書 42:6,7 61:1 ルカによる福音書 4:18 をご参照ください)。

クイズ

1. 聖書は死を、何と同様だと言っていますか？(1)

- 眠り。
- 違った形の生命への変化。
- 説明できない神秘。

2. 死において、神に戻っていく「霊」というのは(1)

- 人の本物の内なる自分。
- 魂。
- 命の息。

3. 死んだ人が行くところは(1)

- 天国か地獄。
- 墓。
- 煉獄。

4. 魂とは何ですか？(1)

- 人間の霊的な部分、あるいは性質。
- 不死の部分。
- 生きている人間そのもの。

5. 魂は死にますか？ (1)

- はい
 いいえ

6. 義人が報酬を受けるのはいつですか？ (1)

- 現世において。
 死ぬときに。
 キリストの再臨のときに。

7. なぜサタンは、死人は死んでいるのではないと言って、人々をだまそうとするのですか？ (1)

- 人々がサタンの奇跡を信じて騙され、滅ぼされるように。
 なぜならサタンは、人々を気の毒に思っているため。
 なぜならサタンは、ただ卑劣で邪悪であるため。

8. 死者と交わる者は、実際には誰と交わっていますか？ (1)

- 不道德な魂と。
 聖なる天使たちと。
 死者を装う悪魔の霊と。

9. モーセの時代に、死者は生きてると教えたすべての人にするように、神が命じられたことは (1)

- 祭司にする。
 知者として誉れを与える。
 殺す。

10. 人はどのようにして、安全で、誤りがないということを確実にできますか？(1)

- 天からの特別なしるしを神に求める。
 牧師や伝道者の言うことを行う。
 聖書を謙遜な心で、熱心に学び、それに従う。

11. 人間が死ぬとき、どうなりますか？ (1)

- 死んだ人の霊、または魂は、そのまま生き続ける。
 死んだ人は、生きている人々を観察し、接触することができる。
 死んだ人は、すべての面で死んでいるのである。それは -- 彼の体は死に、魂の存在はなくなり、生きている人々との接触は不可能になる。

12. 奇跡は、神からのものであるということの証拠になりますか？(1)

- はい、神のみが奇跡を行うことができる。
 いいえ、悪魔もまた偉大な奇跡を行う。

著作権 ; 2006 年 Amazing Facts Inc. 無断での複製、転載を禁じます。
個人使用に限ってのみ複写可。 by www.bibleuniversity.com Bible School website.